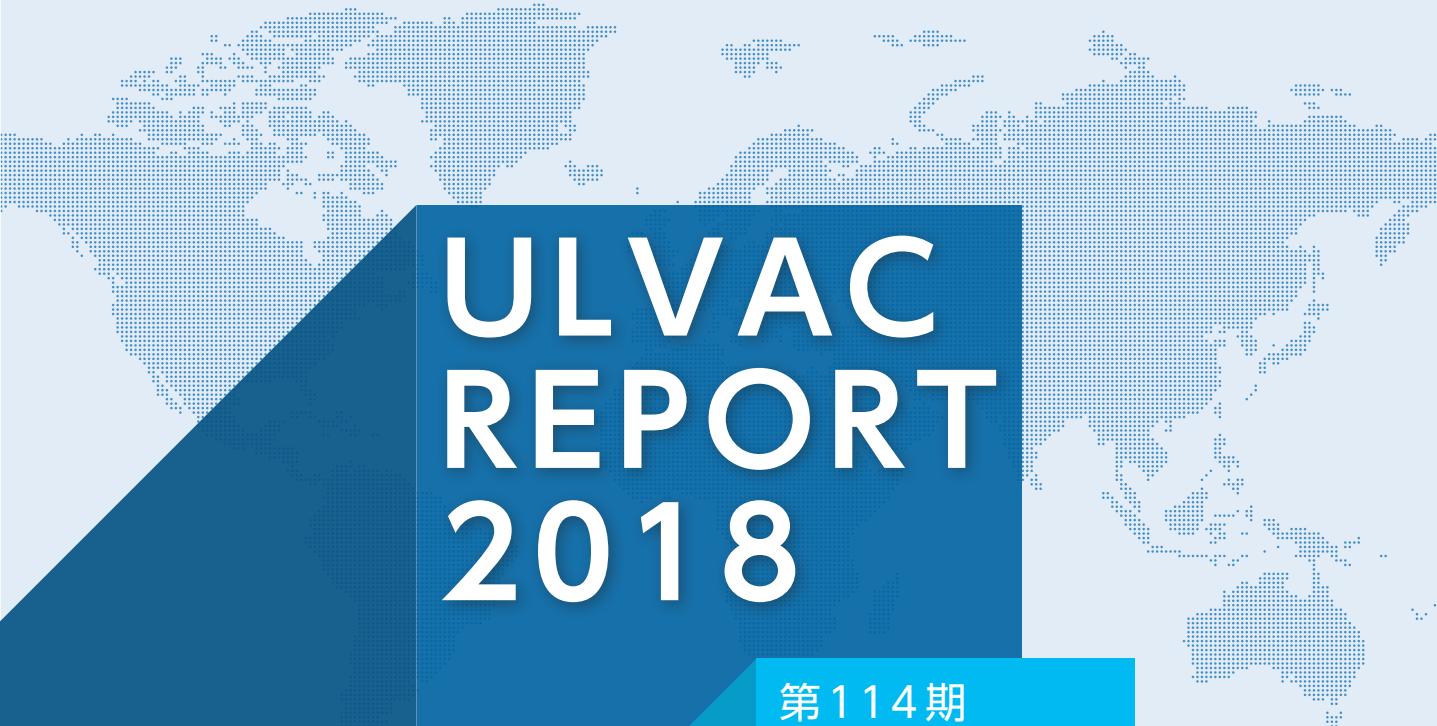


ULVAC

証券コード：6728



ULVAC REPORT 2018

第114期
事業報告書

2017年7月1日～2018年6月30日



代表取締役執行役員社長
岩下 節生

未来を担う人財の育成に注力し、 持続的成長への基盤を確立します。

社長就任2年目を迎えて

グループの成長を実現する「仕組みと仕掛け」

社長就任初年度は、「人財」を活かし、果敢に挑戦する企業文化を大切にし、真空技術を総合利用して産業や科学の発展に貢献するというアルバックのDNAを受け継ぎながら、グループ内のつながりを強め、社員の目線をグローバル志向に変えていく意識改革に取り組んできました。今期(2019年6月期)からは、「真空総合メーカー」としての新たな可能性を拓くべく、改革のスピードを上げていきます。

技術革新の波とグローバルな競争環境による激しい変化の中で、私たちは生き残りをかけた改革を進めていかななくてはならないという危機感を持っています。当社グループの置かれている状況は、国内にいるとわかりづらいですが、私は海外拠点での経験を通じて、お客様と市場の急速な変化を目の当たりにしてきました。

経営基本理念

アルバックグループは、互いに協力・連携し、真空技術及びその周辺技術を総合利用することにより、産業と科学の発展に貢献することを目指す

経営方針

- 顧客満足の増進
- 生産技術の革新
- 独創的な商品開発
- 自由闊達な組織
- 企業価値の向上

同時に、そうした外からの目線を通じて、自らが持つ強みやポテンシャルを再認識することが重要だと考えています。当社グループは、現在の主力であるFPD（フラットパネルディスプレイ）製造装置の他、半導体製造装置とその周辺市場の成長が見込まれる電子部品製造装置も手掛けており、技術革新の波の中で幅広い分野での成長ポテンシャルがあります。また、コンポーネントや材料、カスタマーサポートビジネスなど、安定収益につながる事業基盤を持っていることも強みです。

私は、改革の加速を社員に促すとともに、グループ全体が同じ方向で成長を目指し、実現するための「仕組みと仕掛け」を作っていきます。その「仕組みと仕掛け」の中心は「人財」です。未来を担う人財の育成に注力し、持続的成長への基盤を確立していきます。

2018年6月期の振り返り

創業以来最高の売上高、3期連続で最高益更新

2018年6月期は、前期を上回る受注高を確保し、創業以来最高の売上高となりました。収益性も大きく改善し、各利益項目において3期連続で過去最高益を更新しました。

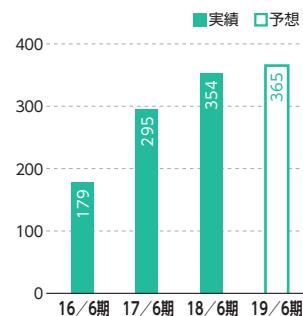
連結業績の推移（単位：億円）

	17/6期 実績	18/6期 実績	前期比
受注高	2,355	2,430	75 (+3.2%)
売上高	2,318	2,493	174 (+7.5%)
営業利益	295	354	59 (+20.0%)
率	12.7%	14.2%	
経常利益	297	369	72 (+24.2%)
率	12.8%	14.8%	
親会社株主に帰属 する当期純利益	245	359	114 (+46.7%)

売上高(連結)（単位：億円）



営業利益(連結)（単位：億円）



受注・売上状況を振り返ると、FPD・PV製造装置は、中国を中心に大型TV向けLCD（液晶）やスマートフォン向けOLED（有機EL）への高水準な投資が続き、これを背景に堅調に推移しました。一方、半導体・電子部品製造装置は、旺盛なサーバー需要を受け、NANDやDRAM、次世代不揮発性メモリ等向けの製造装置が大きく伸長しました。またコンポーネントや材料、一般産業用装置も好調に推移しました。利益面は、半導体・電子部品製造装置の拡大が牽引するとともに、その利益率の高さが大幅増益に寄与しました。

結果として2018年6月期の連結業績は、受注高2,430億円（前期比3.2%増）、売上高2,493億円（同7.5%増）、営業利益354億円（同20.0%増）、経常利益369億円（同24.2%増）となり、親会社株主に帰属する当期純利益は、繰延税金資産や株式売却益の計上の影響等もあり359億円（同46.7%増）となりました。営業利益率は前期の12.7%から14.2%に上昇し、自己資本比率は40.2%から49.5%へ大幅に改善しています。

中期経営計画目標の変更

目標を上方修正、5年後への「成長戦略」を発表

3ヵ年中期経営計画(2018年6月期～2020年6月期)は、最終年度の連結業績における「売上高2,500億円」「営業利益350億円」を目標に掲げていました。しかし、すでに初年度において売上高が目標値に迫り、営業利益は過達となったことから、計画数値を見直し「売上高2,650億円」「営業利益380億円」に上方修正しました。「事業成長の推進」および「価値創造力の向上」を重点戦略とする計画骨子に変更はなく、半導体・電子部品製造装置を中心にさらなる伸びを確保し、新たな目標を達成してまいります。

なお、計画期間中の研究開発投資(研究開発用設備投資+研究開発費)については、半導体・電子部品製造装置をアグレッシブに拡大するために、ロジックや次世代不揮発性メモリなどへの開発を強化し、並行して将来の成長につながる開発も積極的に行っていきます。

また、中期経営計画の見直しと同時に、次の飛躍に向けた「成長戦略」で、5年後の2023年6月期連結業績における「売上高3,000億円」「営業利益率16%」を目指します。

今期の見通しと成長戦略

中期経営計画にもとづく成長戦略を着実に遂行

当社グループは、中期経営計画にもとづく成長戦略のポイントとして、以下のテーマに注力していきます。

半導体製造装置については、メモリ需要の拡大とともに、当社グループにとって新領域であるロジックの需要を積極的に取り込み、これを両輪とする成長を目指します。電子部品製造装置では、5G通信の普及により進展していくスマート化社会への流れを取り込むため、お客様との共同開発を進めつつ、フレキシブルなエンジニアリング力を発揮していきます。FPD製造装置は、引き続き市場の長期継続投資に対応し、大型TV向けのシェアを堅持しながら、OLEDの需要拡大を見据え、受注につなげていきます。コンポーネントや材料、カスタマーサポートは、装置と共にトータルソリューションとして提供できる強みを活かし、安定収益基盤としてさらなる成長を目指していきます。

そして、これらの需要増加を牽引する中国市場において、現地グループ会社15社・1,757名(2018年6月末

現中期経営計画の数値計画見直し (単位: 億円)

	2018年6月期 実績	2019年6月期 予想	2020年6月期 計画
売上高	2,493	2,550	2,650 (前回目標+150)
営業利益	354	365	380 (前回目標+30)

成長戦略

- ① 半導体事業はメモリとロジックの両輪で成長
- ② 電子機器事業は5Gで加速する技術革新をビジネスチャンスに成長
- ③ FPD・PV事業は大型TV・OLED投資を中心に長期的継続投資に対応
- ④ コンポーネント・マテリアル・カスタマーサポート事業の成長(安定基盤)
- ⑤ 中国市場における成長

時点)の従業員とサプライチェーンによる生産体制の強みを活かし、適地開発機能やサービス拠点機能を発揮することで、さらなる成長を遂げていきます。

以上を前提として、2019年6月期の連結業績は、売上高2,550億円(当期比2.3%増)、営業利益365億円(同3.3%増)、経常利益375億円(同1.6%増)、親会社株主に帰属する当期純利益255億円(同29.0%減)を予想しています。

株主の皆様にお伝えしたいこと

社会に必要とされる企業として存続するために

株主の皆様への配当金については、財務基盤の状況や各年度の連結業績および配当性向等を総合的に勘案し、実施する方針としています。当期の期末配当は、好調な業績を反映し1株当たり95円(前期比45円増配)とさせていただきます。2019年6月期の期末配当は、さらに10円増配となる同105円を予定しています。引き続き成長投資や財務基盤強化に必要な内部留保を勘案しつつ、株主の皆様のご支援に報いてまいります。

当社グループは、冒頭に述べました通り、未来を担う人財の育成に注力し、より強固な経営基盤の確立につなげていきます。次世代経営層を養成し、グローバル人財を強化するための教育研修や海外外出向、社外交流を活発化させながら、同時に「ワクワク・イキイキ」とした職場づくりに向けて、働き方改革や女性活躍および健康経営を推進し、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できる環境をさらに進展させていきます。

近年、SDGs(国連の持続可能な開発目標)やESG(環境・社会・ガバナンス)など、持続可能な社会の発展を目指した取り組みが世界レベルで展開されています。民間企業においてもその対応が求められ、事業活動を通じた社会課題の解決を経営テーマに掲げ、積

極的に取り組む動きが広がってきました。

アルバックとしても、今まで以上に企業としての社会的責任を認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。ステークホルダーの皆様との共創を通じ、グループ一丸となって社会課題の解決に取り組んでいきます。中長期的な視点を持ってサステナビリティを重視した経営を推進し、グループとしてのマテリアリティ(重要課題)をより一層明確にしていきたいと考えています。

私たちが提供する製品・サービスは、省エネルギー化や新興国の発展にも貢献しています。これからも「真空技術の総合利用」による価値創造を挙げながら、社会に必要とされる企業として存続し、ステークホルダーの皆様とともに発展してまいります。

株主の皆様におかれましては、これからも长期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



2017.7

パワーデバイス向けイオン注入装置「SOPHI-30」「SOPHI-400」2機種を開発、販売開始

低加速・高濃度対応イオン注入装置「SOPHI-30」は、低加速・高濃度処理が当社比で1/60の時間で可能となり、枚葉処理のため極薄ウェーハ割れなどの問題を払拭しました。高加速対応イオン注入装置「SOPHI-400」は、極薄ウェーハを枚葉式で2.4MeVまで加速して処理でき、さらに次世代プロセスとして水素を使つてのField Stop層の形成も可能としています。



SOPHI-30(左)、SOPHI-400(右)

2017.10

「あおり産学官連携イノベーションアワード2017」にて「イノベーション特別賞」を受賞

アルバック東北(株)、(株)アルバック、岩手大学、八戸工業大学と産学連携している青森県八戸市の鯖加工品製造販売会社である合同会社マルカネが、当社の新たな食品乾燥技術「ゆるドライ」を活用した「鯖」の加工品「さばトバ」を開発し、「あおり産学官連携イノベーションアワード2017イノベーション特別賞」を受賞しました。



販売開始された「黄金さばトバ」

2017.11

「ULVAC Global Festival 2017 ~秋の大感謝祭~」開催

当社は、2017年11月11日、茅ヶ崎本社・工場にて、あらゆるステークホルダーの方々への感謝の気持ちを込めて、「ULVAC Global Festival 2017 ~ 秋の大感謝祭~」を開催しました。工場見学や真空実験をはじめ、社員による各種模擬店、縁日、国内外グループ会社によるグルメグランプリなどが行われ、5,000名を超える来場者で大盛況となりました。



当社キャラクター「あるぼっくん」が初お披露目(写真中央)

アルバックこの一年

2017 ULVAC Year in Review

2018.1

人財センター開設 グループ一体となった人事戦略により 意識改革と共通価値を生み出す

2017年度の当社中期経営計画の「目指す姿」の一つである「次の飛躍のための人づくり、果敢に挑戦する企業文化」の推進を目的として、新たに「人財センター」を開設しました。「人」が一番重要な財産であることを改めて認識し、グループ横断人財育成体系の構築やグローバル人材の登用・育成、外部との積極的な人財交流などを行っていきます。



世界各地の従業員と
若下社長

2018.2

経済産業省 「健康経営優良法人2018(ホワイト500)」認定

当社は、経済産業省と日本健康会議が共同で実施する「健康経営優良法人2018(ホワイト500)」に認定されました。「従業員一人ひとりが心身ともに健康で活気あふれ、自らの能力を最大限に発揮してこそ、アルバックの価値創造ができる」という考えのもと、健康増進を重要な経営課題と位置づけ、健康経営への取り組みを継続・発展させていきます。

働きやすい職場づくりを実現



2018.4

高速排気と低消費電力を両立 ドライ真空ポンプ「LS シリーズ」を 開発・販売開始

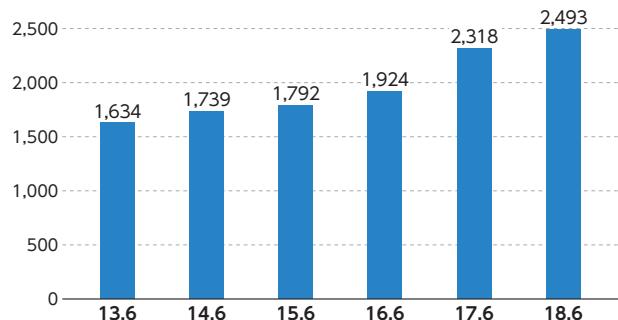
当社は、高速排気と低消費電力を両立させたドライ真空ポンプ「LS シリーズ」を開発しました。大気圧付近の排気速度を大きくすることで、高速排気(排気時間の短縮)を実現しつつ、これまでに培った独自技術により、消費電力の低減を実現しました。



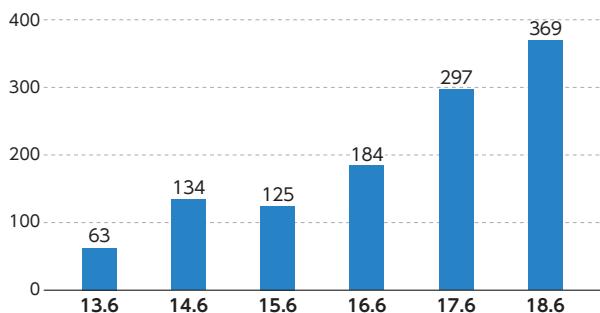
ドライ真空ポンプ
「LS120A」

決算ハイライト

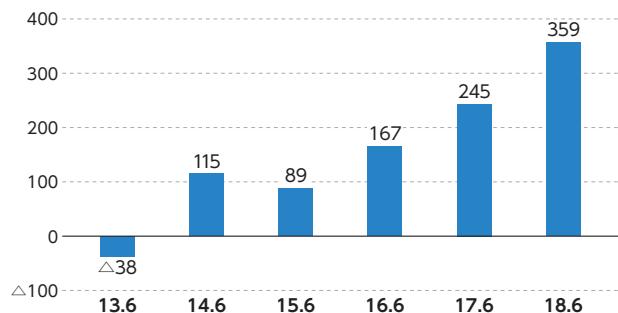
連結売上高 (単位: 億円)



連結経常利益 (単位: 億円)

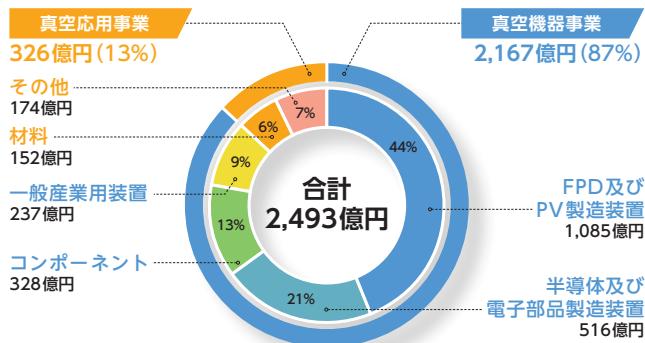


親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 億円)



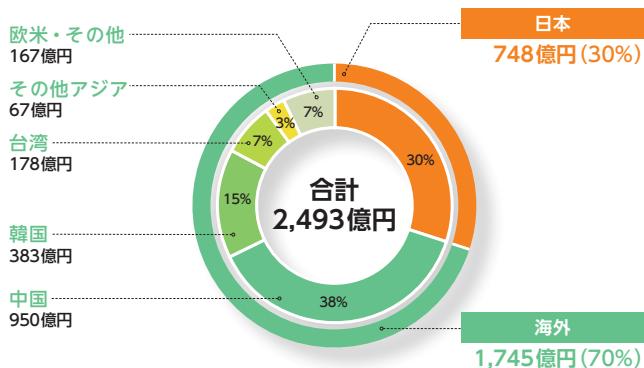
事業別売上高

(18年6月期)



地域別売上高

(18年6月期)



連結貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

科目	当連結会計年度 2018年6月30日現在	前連結会計年度 2017年6月30日現在
資産の部		
流動資産	1,971	1,697
現金及び預金	571	564
受取手形及び売掛金	873	705
たな卸資産	391	302
繰延税金資産	50	60
その他	95	73
貸倒引当金	△9	△8
固定資産	1,007	756
有形固定資産	643	603
建物及び構築物	318	322
機械装置及び運搬具	164	145
その他	161	136
無形固定資産	35	36
投資その他の資産	329	117
投資有価証券	256	44
繰延税金資産	26	23
その他	48	51
資産合計	2,978	2,453
負債の部		
流動負債	1,188	1,160
支払手形及び買掛金	556	488
短期借入金	215	302
その他	417	369
固定負債	248	244
長期借入金	141	125
繰延税金負債	3	14
その他	103	105
負債合計	1,437	1,404
純資産の部		
株主資本	1,318	983
その他の包括利益累計額	158	4
非支配株主持分	65	62
純資産合計	1,541	1,049
負債純資産合計	2,978	2,453

連結損益計算書(要旨)

(単位：億円)

科目	当連結会計年度 2017年7月1日から 2018年6月30日まで	前連結会計年度 2016年7月1日から 2017年6月30日まで
売上高	2,493	2,318
売上原価	1,762	1,680
売上総利益	731	638
販売費及び一般管理費	378	344
営業利益	354	295
営業外収益	26	18
営業外費用	11	15
経常利益	369	297
特別利益	20	1
特別損失	4	11
税金等調整前当期純利益	385	288
法人税、住民税及び事業税	73	46
法人税等調整額	△59	△16
当期純利益	372	258
非支配株主に帰属する当期純利益	13	13
親会社株主に帰属する当期純利益	359	245

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨)

(単位：億円)

科目	当連結会計年度 2017年7月1日から 2018年6月30日まで	前連結会計年度 2016年7月1日から 2017年6月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	191	378
投資活動による キャッシュ・フロー	△16	△137
財務活動による キャッシュ・フロー	△107	△226
現金及び現金同等物に 係る換算差額	0	12
現金及び現金同等物の 増減額	68	27
現金及び現金同等物の 期首残高	476	449
現金及び現金同等物の 期末残高	543	476

単体貸借対照表(要旨)

(単位：億円)

科目	当事業年度 2018年6月30日現在	前事業年度 2017年6月30日現在
資産の部		
流動資産	1,254	1,080
固定資産	875	644
有形固定資産	373	349
無形固定資産	27	30
投資その他の資産	475	266
資産合計	2,130	1,724
負債の部		
流動負債	932	956
固定負債	147	135
長期借入金	136	117
退職給付引当金	5	8
その他	7	10
負債合計	1,079	1,091
純資産の部		
株主資本	901	629
評価・換算差額等	149	5
純資産合計	1,050	633
負債純資産合計	2,130	1,724

単体損益計算書(要旨)

(単位：億円)

科目	当事業年度 2017年7月1日から 2018年6月30日まで	前事業年度 2016年7月1日から 2017年6月30日まで
売上高	1,485	1,379
売上原価	1,099	1,054
売上総利益	386	325
販売費及び一般管理費	198	179
営業利益	189	146
営業外収益	60	55
営業外費用	9	15
経常利益	240	186
特別利益	20	1
特別損失	4	6
税引前当期純利益	257	181
法人税、住民税及び事業税	23	12
法人税等調整額	△63	△11
当期純利益	297	180

会社データ / 株式の状況

会社概要 2018年6月30日現在

商号	株式会社アルバック ULVAC, Inc.
商標	ULVAC
本社	神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地
設立	1952年8月23日
資本金	20,873,042,500円
従業員数	1,293名(連結6,439名)

役員 2018年9月27日現在

代表取締役執行役員社長	岩下 節生
取締役執行役員副社長	本吉 光
取締役常務執行役員	白 忠烈
取締役常務執行役員	佐藤 重光
取締役常務執行役員	石黒 雅彦
取締役相談役	小日向久治
取締役(社外)	御林 彰
取締役(社外)	内田 憲男
取締役(社外)	石田 耕三
取締役(社外)	中島 好美

専務執行役員	末代 政輔
上席執行役員	齋藤 一也
上席執行役員	柳澤 清和
執行役員	梅田 彰
執行役員	松本 亮
執行役員	蔡 有哲
執行役員	池田 和夫
執行役員	近藤 智保
執行役員	青木 貞男
執行役員	島田 鉄也
監査役(常勤)	伊藤 誠
監査役(常勤)	矢作 充
監査役(社外)	浅田 千秋
監査役(社外)	宇都宮 功

株式の状況 2018年6月30日現在

発行可能株式総数	100,000,000株
発行済株式の総数	49,355,938株
株主数	15,859名

大株主

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
日本生命保険相互会社	3,242	6.57
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,048	6.18
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	2,023	4.10
株式会社みずほ銀行	1,916	3.88
株式会社三井住友銀行	1,864	3.78
TAIYO HANEI FUND,L.P.	1,050	2.13
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505019	979	1.98
株式会社三菱UFJ銀行	910	1.84
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY	907	1.84
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	885	1.79

(注)持株比率は自己株式(3,466株)を控除して計算しております。

所有者別株主数

合計15,859名

個人・その他	15,134名
外国法人	339名
その他国内法人	221名
証券会社	69名
金融機関	63名
外国個人	32名

自己株式:1名

所有者別株式数

合計49,355,938株

金融機関	19,358,420株
外国法人	17,626,222株
個人・その他	7,587,870株
その他国内法人	2,518,291株
証券会社	2,233,548株
外国個人	28,121株

自己株式:3,466株

株主メモ

事業年度	7月1日から翌年6月30日まで
定時株主総会	9月下旬
基準日	定時株主総会・期末配当 6月30日
株主名簿管理人及び 特別口座の口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電話照会先)	TEL.0120-782-031(フリーダイヤル) 受付時間 9:00～17:00(土・日・祝祭日を除く)

住所変更など諸手続のお申し出先について

株主様の口座のある証券会社等にお申し出ください。
なお、証券会社等に口座がないため特別口座が開設されました株主様は、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

三井住友信託銀行株式会社への
手続用紙(住所変更・買取請求・配当金振込指定など)のご請求
ホームページアドレス
<https://www.smtb.jp/personal/agency/>

未払配当金のお支払いについて

株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

配当金のお受け取り方法について

配当金を配当金領収証でお受け取りの株主様には、確実に配当金をお受け取りいただける預金口座や証券会社の口座への振込みによる配当金のお受け取りをお勧めします。詳しくはお取引証券会社等にお問合せください。

IRカレンダー

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	第2四半期 決算発表			第3四半期 決算発表			期末 決算発表			第1四半期 決算発表	

定時株主総会

ホームページのご案内

当社ホームページでは、最新のニュースや技術情報など、当社をご理解いただくためのさまざまな情報を提供しております。



<https://www.ulvac.co.jp/>

アルバック

検索



ULVAC 株式会社アルバック

本社・工場 〒253-8543 神奈川県茅ヶ崎市萩園2500番地 TEL.0467-89-2033

